

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



リバーサイドの河津桜



24万人目のご入館となった阿部さんと近藤さん



春の訪れとともに、花のたよりも続々と届きました

湯之奥金山遺跡測量調査中間報告発表会も大盛況で、新年度事業の一つ「内山金山遺跡測量調査」へ、期待と夢をつなげることが出来ました（関連記事3ページ）。

そんな中、今年もリバーサイドパークの河津桜が綺麗に咲き誇り、夜間は下部温泉郷の皆さんの演出により、夜間ライトアップもされ、観光で訪れた皆様の目を昼夜楽しませてくれました。この河津桜は神宮司剛さん（伊東市在住）から数年前に、地域にご寄付いただいたもので、ご本人曰く「今年は綺麗に咲いたのだろうか」と、花の時期になると、いつも気にかかり、まるで子供の成長を見る楽しみのように感じているそうです。

また桜と言えば、身延山のしだれ桜。今年は予想外の低気温日が続いたため、逆に例年より長期にわたって、花見を楽しむことが出来たようです。そんな春の花を楽しみに、博物館へも大勢のお客様がお見えくださいましたが、これを皮切りに、いよいよ観光シーズン到来です。

全国金山（含む砂金確認河川）遺跡分布図と 鉱山道具集成図録作成へ

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一 夫

前回（第51号）の館だよりで「日本における金銀鉱山遺跡・これからの金山史研究の可能性」について触れた。復習すると日本列島における産金の歴史は古代に遡り、奈良時代の天平21年（西暦749年）に陸奥国小田郡黄金迫から産出した黄金の歴史に始まり、考古学調査でも8世紀の奈良県飛鳥池遺跡における金銀細工片と埴塙の発見で、8世紀には既に産金地や金銀工房の存在が明らかとなっている。

8世紀以後の日本における産金銀の歴史は16世紀（西暦1500年）へ飛び、甲斐金山遺跡に見られる初源的の山金山（砂金に代わる鉱石からの産金）遺跡などへとつながるが、この8～16世紀の間、約800年間の金山史研究は、研究の空白期となっている。研究が集中している時期は16世紀の甲斐金山である黒川金山、湯之奥金山、17世紀以降の金銀山史研究は石見銀山、佐渡金銀山などで、いずれも大きな前進が見られている。

しかし、この8～16世紀の研究の空白期こそ日本の黄金文化が花開き、12世紀の平泉・中尊寺における金色堂では純金箔が張り巡らされ、その輝きは豪華絢爛である。金箔加工技術も確立されている。しかし、そこで使われた金は何処で産出されたかの研究は今だ未解明のままである。

13世紀にはマルコポーロの東方見聞録によって黄金の国ジパングは欧州へ伝えられ、14世紀のコロンブスの航海日誌には数箇所に「ジパ

グ」の記述が見られたりするほど、ジパングは魅力の地であったと見られるものの、その産金地の歴史は明らかになっていない。

湯之奥金山博物館の課題

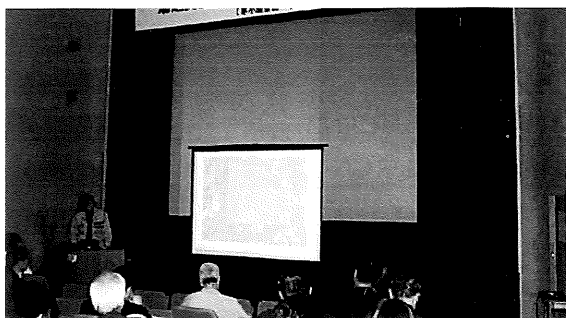
甲斐金山遺跡である湯之奥中山金山の総合調査開始から22年が経過した。その成果は金山遺跡研究に画期をもたらしたが、その研究最前線も「堂々巡り」感が漂い始めてきた。そのため、更なる最新情報を付加させるための調査として、昨年度は湯之奥3金山のうち茅小屋金山の、また今年度は内山金山の測量調査を実施し、湯之奥金山全容解明へ向けたデータ集積を行っているが、それと並行しながら、甲斐金山時代へ到達する前段階である8～16世紀の金山史研究を進めることで、8世紀以降の金銀山史を通史的に展望できるようにし、甲斐金山の歴史的な位置づけについて把握し、しっかりと生涯学習に取り入れていきたい、これがこれからの湯之奥金山博物館の役割だと確認している。

この作業を3箇年くらいの課題として取り組み、全国金山（含む砂金確認河川）遺跡分布図、鉱山道具集成図録、金山史文献目録作成などの作業に取り組みたい。この作業を通じ「黄金の国ジパング」に迫りたいと考えている。全国の諸先生方、関係者の皆様のご指導と協力を是非とも賜りたいと願っている。

活 動 報 告

湯之奥金山遺跡測量調査中間報告発表会

2月27日(土)



去る2月27日に開催いたしました「湯之奥茅小屋金山遺跡中間報告発表会」ですが、大勢の皆様のご関心を集め、多くの方がお集まりくださり、盛会のうちに終えることができました。

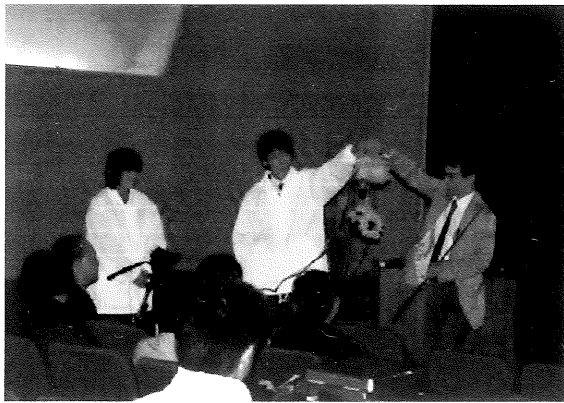
受付時レジュメ他をお渡しする際、基調講演で講師を務めてくださった、松江工業高等専門学校の高間英樹教授と学生の皆さんの「せっくなのだからこうした機会を皆さんに出来るだ

け楽しんでいただきたい」というお心遣いから、「螺灯クッキー」と松江高専特製キーホルダーをご用意くださり、合せてお渡ししました。そんな嬉しいおまけ付きの報告会に、皆さん、思わず表情もほころんでいました。

さて、この日の会場は博物館映像シアター。報告会開会式を終えた後、谷口館長より湯之奥金山遺跡の歴史的概略をお話いただき、その後を受けて、測量調査のメインとなった茅小屋金山遺跡の新発見について、測量調査発表として、テクノプランニング測量技師の柴田直樹さんにお話いただきました。

測量調査のメインスタッフとして実際に現場で調べられた最も大きな成果として出来上がった茅小屋金山遺跡の測量図は、これからの調査研究に大変役立つ素晴らしいものでした。また調査では新たな遺構や遺物の発見もあったことが判明し、大いに関係者の興味をそそるところでした。

柴田氏の発表後は、一昨年、湯之奥中山金山で「坑内探査ロボット」を使って坑内測量をしていただいた久間教授に、この“ロボット測量”についての遺構調査における有効性などについ



て、映像を交えながらご講演をいただきました。軽快な久間先生のお話会場からは時折笑いも混じりながらの和やかな講演となりました。この日、坑内ロボットの現物もお持ちいただきたく



探査ロボットの解説をする久間教授

さだったので、休憩時間の際には会場の皆さんが集まって、興味津々にロボットを観察する様子もみられました。

久間先生のお話がお終わった後は、谷口館長、柴田氏、久間教授、そして帝京大学山梨文化財研究所の宮沢氏の4名でパネルディスカッションが行われ、それぞれのお立場から調査に関わる部分や今後の研究の方向性などについてお話しいただきました。

22年度には内山の測量調査を行います。久間先生からは、また他の坑道のロボット調査をさせていただきたいという精力的なお言葉もいただいております。今回のような調査発表の機会を設け、多くの方々に湯之奥金山遺跡の新たな発見を知っていただく機会になれば、と願っています。

なお、この調査内容を知ることのできるパネル展示は、好評につき、映像シアターにて展示公開いたしておりますので、ご来館の際は合わせてご覧になってください。

第10回企画展・『湯之奥金山遺跡測量調査展』 2月27日(土)～3月24日(火)



2月27日の湯之奥金山遺跡測量調査報告会の関連展示として準備した写真・パネル展示でしたが、お客様からの好評とご要望につき、「第10回企画展」として、展示期間を延長し3月24日までのおよそ一か月間、改めて開催いたしました。

特にお客様の目を引いたのは、入口に設置した約2m×2mの、湯之奥金山遺跡を包括した毛無山の大きな航空写真で、写真を見ていただきながら、現地までの時間や標高を伝えると、多くの方が、改めて現地までの道のりの大変さを感じられたようでした。

なお、この写真は現在、展示プロローグにて活用し、公開しております。

有料入館者24万人目のお客様は阿部厚子さん!

2月20日(土)

去る2月20日、土曜日の昼下がり、博物館ではめでたく有料入館者24万人目のお客様をお迎えすることが出来ました。今回の幸運は、横浜からおこし下さった阿部厚子さんとそのお友達の近藤友紀さんに巡りあいました。お二人は下部に初めて訪れたそうで、「下部温泉にやってきたところ時間があつたので、熊野神社にお参りにいってここに立ち寄ったら、なんと24万人目になったので、御利益があつたんだと思います。」と戸惑いながら喜びの感想を述べてくれました。砂金採り体験を楽しんだ後、2階の展示もゆっくりご覧くださり、帰りには「今夜は一泊するので、明日は熊野神社に報告に行ってから帰ります」とはにかみながら館を後にされました。

この日は、五味篤先生の公開講座の日で、タイ



ミングもまさに講演まっただ中。講演中の五味先生にお声を掛けたところ「素晴らしいことですからどうぞアナウンスしてください」とのお心遣い。聴講者の皆様に24万人目のお客様をお迎えできた報告をさせていただくと、お二人に、会場からの温かい拍手が贈られました。

平成21年度の有料入館者数は約2万人!

100年に一度といわれた不景気と言われた2008年から2009年へ。全国的に観光地や観光施設にとっては現在も大変厳しい状況下にありますが、そうした中、当館は毎年目標としている年間有料入館者2万人をほんのわずか欠けたのみにとどめ、今年度も多くの皆様にご来館いただいた結果となりました。ひとえに皆様のご支援とご協力と、館の地道な努力と姿勢が実を結んでいる結果と受け止めています。

観光地にとってのこの厳しい状況は今後もしばらく続くと予想されますが、お客様にとって「居心地の良い気持ちの休まる博物館」を目指して参りますので、今後も変わらず、皆様からのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

平成21年度 博物館利用状況

年月	開館日数	区分	有 料 入 館 者				無 料 入館者	年月	開館日数	区分	有 料 入 館 者				無 料 入館者
			観 覧	体 験	共 通	合 計					観 覧	体 験	共 通	合 計	
21. 4	3週無休開館 27	大 人	554	543	311	1,408	30	21. 11	26	大 人	635	305	645	1,585	46
		中学生	2	27	41	70				中学生	32	140	20	192	
		小学生	11	72	44	127				小学生	14	74	26	114	
		小計	567	642	396	1,605				小計	681	519	691	1,891	
5	27	大 人	632	502	480	1,614	40	12	23	大 人	245	141	119	505	14
		中学生	10	130	99	239				中学生	1	31	6	38	
		小学生	193	174	192	559				小学生	23	51	22	96	
		小計	835	806	771	2,412				小計	269	223	147	639	
6	26	大 人	469	398	406	1,273	52	22. 1	26	大 人	319	183	107	609	11
		中学生	8	42	12	62				中学生	1	24	4	29	
		小学生	10	108	52	170				小学生	10	94	32	136	
		小計	487	548	470	1,505				小計	330	301	143	774	
7	26	大 人	465	251	475	1,191	24	2	24	大 人	200	177	200	577	7
		中学生	4	56	56	116				中学生	2	5	3	10	
		小学生	17	105	114	236				小学生	5	36	15	56	
		小計	486	412	645	1,543				小計	207	218	218	643	
8	無休開館 31	大 人	800	874	902	2,576	37	3	1週無休開館 28	大 人	446	255	475	1,176	20
		中学生	14	142	132	287				中学生	52	12	20	84	
		小学生	65	504	358	927				小学生	27	104	86	217	
		小計	879	1,502	1,391	3,790				小計	525	371	581	1,477	
9	25	大 人	496	354	499	1,349	24	合計	316	大 人	5,868	4,231	4,893	14,992	340
		中学生	3	32	9	44				中学生	131	656	409	1,196	
		小学生	7	391	69	467				小学生	383	1,768	1,146	3,297	
		小計	506	777	577	1,860				小計	6,682	6,655	6,448	19,485	
10	27	大 人	607	248	274	1,129	35	※企画展・特別展、見学会、映画会、砂金掘り大会、探検隊などのイベント参加者は上記表内のカウントに含まれておりません。							
		中学生	2	15	8	25									
		小学生	1	55	136	192									
		小計	610	318	418	1,346									

南部警察署より感謝状をいただきました

2月9日(火)

去る2月9日、南部警察署感謝状贈呈式に出席させていただき、湯之奥金山博物館も感謝状をいただきました。

南部警察署署員の皆様には、常日頃、博物館を気にかけていただき、また何かと親身にご対応いただいておりますが、貴重な資料を收藏し、取り扱う施設としては大変心強い限りです。

警察署員の皆様の今後のさらなるご発展を祈念いたします。



湯之奥金山博物館「日曜コンサート」

3月28日(日)

3月28日の日曜日の午後、春の恒例、日曜コンサートを開催いたしました。

演奏は、当館谷口館長も団員である南アルプス桃源交響楽団の皆様で、春のひとつときに管弦楽・金管楽器木管楽器の素晴らしいハーモニーを奏でてくださいました。

そんな中、谷口館長自身にもソロ演奏のパー

トがあり、場内からは温かい拍手がわき起こりました。

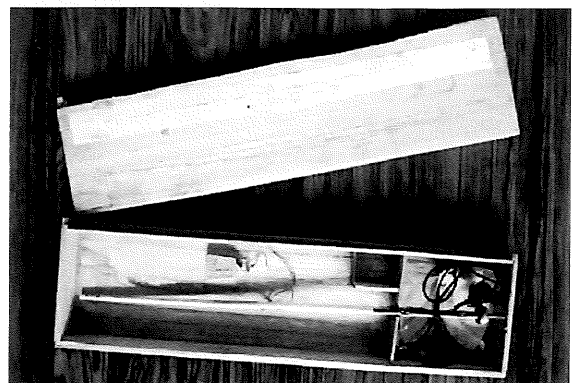
20人ほどの小編成でおいでくださった楽団の皆様でしたが、いつもながら息の合った演奏で、館内に美しい音色が響き渡り、お客様を楽しませてくださいました。



「砂金秤」をご寄贈いただきました

このたび浜松市在住の松下竜哉様より、右の「砂金秤」をご寄贈いただきました。松下様は、砂金採り体験を楽しまれ、また昨年度の砂金掘り大会一般大会では総合優勝となり、日頃、博物館にもよく足を運んでくださっている方です。金や砂金の歴史にも興味を持たれ、そんな中この「砂金秤」を見つけ、先方との交渉の末、ようやく入手された貴重な資料を、このたびご寄贈くださいました。

松下様のご好意にお応えすべく、この「砂金秤」についての詳細を調査研究し、常設展示室にて皆様にご覧いただくよう準備を進めております。



北海道で使われていたという砂金秤。
秤皿部分は鼈甲、持ち手は象牙製。

湯之奥金山博物館2010年催し物・イベント

	事業内容	その他、月のイベント
4月	「館だより第52号」発行 24日(土) 博物館開館記念日	
5月	1～5日(GW 5日限定) 体験室イベント 8日(土) 親子映画観賞会	
6月	第11回企画展「根子銅山の歴史(仮)」 「館だより第53号」発行	
7月	24日(土) 夏休み自由研究 第2回科学実験教室	
8月	8月中・夏休み無休開館 7月31日(土)～8月1日(日)「第10回こども金山探検隊」 7日(土)「第10回砂金掘り大会・東西中高交流砂金掘り大会」 ※7、8月の夏イベントに関する詳細は次ページをご覧ください。 18日「夏休み親子映画観賞会」	夏休み期間中、来館された小学生以外のお友達はラッキーくじを引くことができます。
9月	「館だより第54号」発行 遺跡見学会(茅小屋金山、他)	
10月	平成22年度公開講座開始	多目的ホールにて翌2月まで 各月1回土曜日午後2時～
11月	22年度公開講座 第2回目	
12月	クリスマス月間(1日～25日まで) 12日(日) 第1回キラキラシルバーアクセサリー作り教室 12月28日～翌1月1日まで年末年始休館日 22年度公開講座 第3回目	12月中はチケットご購入の皆様に博物館特製オリジナルクリスマスカードプレゼント。
1月	1月2日から年始開館。 10日～20日まで「お山飾り」 「館だより第55号」発行 22年度公開講座 第4回目	～3日までの2日間はお年玉期間。 売店にてお正月福袋もご用意。 地域の小正月行事でエントランスに色鮮やかな柳飾りを立てます。
2月	22年度公開講座 第5回目 13日(日) 第2回キラキラシルバーアクセサリー作り教室 2月26日(土) 内山金山遺跡測量調査報告会	バレンタインデー
3月	観桜期無休開館期間 3月24日(木)～4月12日(火) 30日(火) 春休み親子映画観賞会	
その他	日曜コンサート、古文書教室、一日見学バスツアーなど 計画しております。	

湯之奥金山博物館開館カレンダー

4 月							5 月							6 月							7 月							8 月							9 月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3						1				1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7					1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	
25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			25	26	27	28	29	30	31	29	30	31				26	27	28	29	30					

■…グレー部分が休館日です。8月は無休開館しております。

湯之奥金山博物館 夏休み3大イベント

戦国期の鉱山作業を湯之奥金山遺跡の登山とセットで体験できる「こども金山探検隊」。県内外を問わず多くの申し込みがある人気のイベントです。そして子供から大人まで楽しむことができる「砂金掘り大会」は今年で第10回目。フンコインで参加できるとあってこちらも毎年多くの参加者が砂金掘りの技術を競い合っています。※イベントの詳細については、変更することがございますがあらかじめご承知おきください。

代 表 名	「夏休み自由研究 第2回科学実験教室」	「第10回こども金山探検隊」	「第10回砂金掘り大会・ 東西中高交流砂金掘り大会」
主 旨 ・ 目 的	昨年当館で開催され、大変好評だった「化学実験カーがやってくる」。本年も「夏休み自由研究 第2回科学実験教室」として開催します。より多くの子供たちが、体験的な実験を通して、化学を学ぶ楽しさや驚き、魅力を浸透させ、感動を体感できる絶好の機会！甲斐黄金村・湯之奥金山博物館でも、そんな化学実験学習を開催いたします。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。	「こども金山探検隊～戦国時代へタイムスリップ～」は、鉱山作業に主眼を置き、かつて戦国時代に湯之奥金山で行われていた鉱山作業の歴史事業に基づき、現地遺跡の見学から始まり、鉱石の採集、そして粉成作業、比重選鉱、灰吹という、館展示室で紹介している戦国時代の鉱山での作業を、自分で、「見て」「触れて」「体験する」という一連の作業を通して、鉱山作業を理解してもらうことに目的をおいた企画であり、夏休み恒例事業として今回で10回目を迎えます。	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館では、湯之奥金山という歴史的遺跡を21世紀に広く伝えると共に、砂金採り体験室とは一味違う砂金掘りを楽しみ、また砂金掘り技術の普及並びに啓蒙を図るために日本大会や世界大会が存在することを合わせて周知することを目的とし、砂金掘り大会を開催いたします。お誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。
期 日	平成22年7月24日(土)	平成22年7月31日(土)～8月1日(日) ※雨天決行、ただし見学会中止 (雨天プログラムに変更)	平成22年8月7日(土) ※雨天の場合 翌日8月8日(日)
ス ケ ジ ユ ー ル	第1回【9:30～10:30】 第2回【11:00～12:00】 第3回【13:30～14:30】	1日目 7月31日(土) 【茅小屋金山遺跡 現地見学・粉成・汰り分け】 2日目 8月1日(日) 【灰吹、甲州金作り】 2日間セットのプログラム	受 付 午前8時30分～ 競技開始 (一般の部) 午前9時30分～午後12時30分 (学校交流戦) 午後2時～午後4時30分
場 所	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 多目的ホール 宮本一弘先生 (東京・開成学園教諭・理化学部顧問)	集合・湯之奥金山博物館	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 イベント広場特設会場 (博物館専用駐車場)
参 加 費	1,000円(予定)	参加費：4,000円 (※予定。純金材料費として) 欄外注記参照	大 人 500円 中学生未満 300円 (※競技で採取した砂金は お持ち帰りいただけます)

※参加費はあくまで材料費なので保護者・付き添い等からは徴収しません。

なお、夜のバーベキュー懇親会参加の場合は、保護者・参加者問わず、別途大人1,000円、子供500円いただきます。

館からお知らせ

○親子映画観賞会 期日：平成22年5月8日(土) 午後6時15分～8時
(午後6時開場・於映像シアター)

上映作品：「子象物語～地上に降りた天使～」 観賞無料(定員85人)

【作品内容】：現代も語り継がれている有名な絵本「かわいそうな象」をモチーフに作られた映画です。時代と人間の都合に翻弄される動物たちと、戦争の不条理さを痛感する、多くの皆様にご覧いただきたい作品です。観賞ご希望の方は博物館までご連絡ください。(※シアター場内は飲食・喫煙は禁止です。)

5月から夏時間となります。→→→ 開館時間：午前9時～午後6時まで(受付は閉館30分前まで)

ゴールデンウィーク期間中の開館時間について

ゴールデンウィーク期間中の平成22年4月29日(木)～5月5日(水)まで、休まず開館しております。連休中、帰省されたご家族や遊びに来たお友達を連れて、是非、金山博物館へおいてください。多くの皆様のご来館をお待ちしております。

なお、5月6日(木)は振り替え休館日とさせていただきますので、お間違えのないようにご来館ください。

博物館日誌 (平成22年1月～3月)

7日(水)	3日(土)	4月1日(木)	29日(月)	28日(日)	24日(水)	23日(火)	21日(日)	18日(木)	17日(水)	11日(木)	10日(水)	6日(土)	3日(水)	3月1日(月)	27日(土)	24日(水)	23日(火)	21日(日)	20日(土)	19日(金)	17日(水)	14日(日)	11日(木)	10日(水)	9日(火)	27日(土)	1月23日(土)										
休館日	身延山観桜会出張砂金採り(～4日)	年度初め	NHK「タイムスクープハンタ」取材	日曜コンサート「BRASSの饗宴」	親子映画観賞会「HACHI/約束の犬」	身延山観桜期無休開館初日(～4月6日)	平成21年度湯之奥金山博物館運営委員会	春分の日	浄化槽点検	休館日	ワーキンググループ会議	休館日	山梨日日新聞取材	休館日	MOA児童作品展展示(～3月7日)	測量調査報告(～3月23日)	企画展 湯之奥金山遺跡「茅小屋・内山」	中間報告発表会	湯之奥金山遺跡「茅小屋・内山」 測量調査	テナンス	休館日・電気点検メンテナンス・空調メンテナンス	ワーキンググループ会議	悪魔払い	有料入館者24万人達成	第65回公開講座・五味篤先生	F M I F U J I 出演	休館日	魅力づくり協議会	バレンタインデー	(入館者にチョコプレゼント)	建国記念の日	休館日	燻蒸(於木喰の里・微笑館)	南部警察署 感謝状贈呈式	休館日	第64回公開講座・大森直之氏	休館日

編集後記

今年の春はどうも気候が定まらず、この時期になっても、「冬に逆戻り」というフレーズをよく耳にします。そのせいか、ここのところ体調を崩す方も多いようですが、それぞれに十分に気をつけましょう。冬にはこまめに行っていたうがいや手洗いも、暖かくなると、うっかり怠りがちになってしまうもの。

「喉元過ぎれば…」ではありませんが、季節問わず、いつでも気をつけていたいものですね。

さて、新人さんが溢れる4月を過ぎ、新環境に慣れた頃にやってくる5月の大型連休。どこかへ遊びに出かけるもよし、新環境で疲れた体を思い切って休ませてあげるもよし。いろんなお休みの使い方がありますが、とにかく誰にとっても有意義な休暇になりますように。

博物館だより 第52号 平成22年4月15日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 電話 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html 博物館Eメールアドレス yunoking@town.minobu.lg.jp